

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190400012		
法人名	社会福祉法人 清水福祉会		
事業所名	グループホーム けいこう園		
所在地	多久市東多久町大字別府5222番2		
自己評価作成日	平成28年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/41/index.php?action_kouhyou_pref_topijgyosyo_index=true">http://www.kaigokensaku.jp/41/index.php?action_kouhyou_pref_topijgyosyo_index=true</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年11月30日	外部評価確定日	平成29年1月4日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム けいこう園は「笑顔・和・思いやりを持って社会に貢献する」という法人共通の理念を基本として、利用者一人一人の人格と尊厳を尊重する介護を行うよう頑張っています。年々高齢化、重度化が進み、できられることが少しずつ少なくなっている方もおられますが、“まだまだできること”を見逃さないよう、個別の対応をしながら入居者それぞれが役割を持てるような支援をしています。ホーム内は各季節の制作物や行事等の写真などを掲示し、家庭的な雰囲気の中で利用者、スタッフが共に楽しく日常生活が送れるように心がけています。また、同一敷地内にある養護老人ホームとも自由に行き来をし、ボランティア訪問などにも参加して、馴染みの方との楽しい時間を過ごし、交流を深めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

職員が常に心掛けていることは利用者の立場で考えることである。想いを表すことが難しくなった利用者を「自分であれば」、「自分がされたら」と置き換えて考え、日々のケアに努めている。また、介助することだけが支援ではなく、できるだけ本人に任せ見守ることも大切であるとは全員の共通認識である。年を重ねるごとに様々なものの低下が予想される中で、ある程度の維持ができていく現状は、そうしたケアの成果でもある。職員と賑やかに会話をしている利用者の様子には笑顔もみられ、頻りに法人内での人事異動をする事業所も多い中、慣れ親しんだ職員が長く傍にいてくれることで落ち着いて暮らせる安心感がうかがえる。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの介護理念を施設内、スタッフルームに掲示し、朝の申し送り時に唱和している。職員はその理念を共有し、実践に取り組んでいる。	事業所では法人内で統一されている共通理念を軸に、独自に作り上げた基本理念も掲げている。開設時の管理者によって考えられたそれは「利用者それぞれに役割と個性をもって日常生活を送れるよう支援する」と謳っている。職員は日頃から利用者の興味や残存能力を把握し実践に努めている。利用者がごく自然に暮らしの一コマとして手伝いをし感謝されている状況に理念が活かされているのがうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同一敷地内にある養護老人ホームとの合同のお祭りには地域の方々にも案内をし、一緒に楽しんで頂いている。また保育園児やボランティア訪問も一緒に楽しんでいる。戸外活動時には通りすがりの方への挨拶なども実施している	隣接する同法人施設と合同で開催する夏祭り(または秋祭り)には地域住民も招き多くの方が訪れている。散歩中に出会う住民とも気軽に挨拶を交わし、地域に暮らす一員として認知されている。自治会には未加入だが地域の情報は運営推進会議メンバーからもたらされており、これからは回覧板等を利用して事業所から発信していくことも課題としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通して 地域の方々にも認知症の理解を深めて頂くよう努力している。見学に来られた方やご家族にも相談に乗ったり、支援の方法について話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度 地区の区長(民生委員)さん、副区長さん、分館長、市の包括支援センター長、ご家族代表、利用者代表と施設長、スタッフが参加し、施設の取り組みの実態など報告を行っている。突発的な事故等の報告も行う。会議での意見、アドバイス等はその後のサービスに活かすよう努めている	運営推進会議は外部の人の目が入る貴重な機会である。事業所からの報告のみに終始しないよう心掛けている。メンバーの出席率は高く、13時半からの約一時間が有意義なものとなるよう努めている。ヒヤリハット事例も隠さずに報告し、出された意見にも真摯に向き合っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として 地域包括支援センター長(または職員)に参加してもらい、意見、協力をいただいている。今年度は認知症地域支援推進員も参加して頂いている。施設からは地域ケア会議に出席し連携を図っている	運営推進会議のメンバーでもあり普段から顔見知りである。電話や直接会って実情を伝えており、助言をもらえる関係は築けている。最近の例では防犯の案件があり、周囲からの見通しも考え垣根の剪定を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ一同「拘束しないケア」の理解、実践に努めている。日中は玄関の施錠は基本的には行っていない。ただし、入居者の身体・精神状態により安全確保のために拘束せざるを得ない状況が発生した場合には家族様に状況を説明し同意をいただいたうえで対応し、長期化しないよう話し合いをしている。	入居時に説明をし指針もある。研修に出席した職員が職員会議等で全員に周知しているため、身体拘束の内容やその弊害はよく理解され日頃のケアにも活かされている。日中は玄関の施錠をしておらず、センサーの設置はあるものの行動を抑えることなく見守っている。仮に利用者が外へ出ても納得するまで暫く一緒に歩くというのが基本である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ一同「高齢者虐待防止法」の理解に努め、毎日の生活の中で注意を払い対応するように努めている。スタッフミーティングでの話し合いも行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加が少なかったが地域包括ケア会議などでの情報はスタッフミーティングで報告情報の共有を図っている。必要な状況が発生した場合には速やかな対応ができるよう 努力している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時や契約時には時間を掛けて十分に説明を行い、納得して頂ける状況は確保している。年度によって改定などがある場合にはその都度口頭・説明を行い同意を得るようにしている。ただし、主体はご家族様となっている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが利用されることは少ない。日頃から入居者や家族様とのコミュニケーションを密にし、毎月のお便りなどでも様々な意見、要望を表して頂くようお願いしている。必要と認められる事例についてはその都度検討し運営に反映させるよう努めている。	毎月の利用料をあえて持ち込みとし面会を促している。家族が訪れた際には雑談なども交え、近況を伝えながら要望を聞き取ろうとしている。あまり意見を言わない家族とも根気よく話し、打ち解けてもらえるよう努めている。利用者に変化があればすぐに連絡を入れており、家族は安心感と信頼を寄せている。また、洗濯物間違いの指摘があった時には職員の思い込みが原因であると分析し改善され、申し出には謙虚に向き合う姿勢がうかがえる。そして、事業所外に苦情や相談の窓口があることも書類に明記され説明を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回にスタッフミーティングで各スタッフからの意見を聞いている。また連絡ノートも活用している。日常の色々な場面でもスタッフの意見や提案を聞く機会があり、反映させるよう努めている。その日出勤のスタッフでの申し送りも毎日行うようにしている。	毎月一回の職員会議は18時から約一時間半ほどだが、これには休みの職員も出席している。各記録簿等で確認できることは職員自らに任せ省略し、限られた時間を有効に使っている。最近の意見では耳の遠い利用者に対し大きな声でばかり話すよりも筆談を交えた方が効果的であること、大きな声に敏感に反応する利用者もあること等が出され改善されている。管理者としては働きやすい職場であることも重要であり、現場の職員の声に耳を傾けコミュニケーションを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握することはもちろん業務に必要と思われる資格の取得、処遇改善手当の充実、非正規職員の正規化に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症研修への参加はもちろん、認知症介護リーダー研修、介護職員の喀痰吸引研修への参加等 職員の資質向上を図っている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームに係る研修を通じて交流の機会を設ける他、地域包括ケア会議への参加などで地域のネットワークづくりや勉強会活動に取り組んでいる		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階でできるだけ本人と話す機会を持ち、寄り添い、安心できる関係の構築に努め、本人の思いを伝えられる状況を作るよう心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階でできるだけ家族様と話す機会を多く持ち、安心して話ができる関係作りに努めている。不安に思っていることや要望などに耳を傾け、状況に応じた返答やアドバイス等を行うようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは本人、家族様の要望を聞き、生活状況、家庭環境などを照らし合わせたうえで何が必要なサービスかを見極めるよう努力している。他のサービス利用が必要と思われる時には家族様、関係機関とも十分話し合いをしたうえで支援を行うようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、本人ができることを見出し、レク活動への参加や共同作業に置いて共に暮らす者同士としての関係を築いている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話の際には近況をお伝えし、要望の確認をするなど情報交換を行い、本人と家族様の絆を大切にしながら、ともに支えていく関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られたなじみの方や知人の方には再来の言葉かけを行い、これまでの関係が途切れないように支援を行っている。また、場所についても記憶にとどまるよう日常の会話の中に取り込んでいくようにしている	入居までの人間関係の把握は重要である。本人や家族、担当のケアマネジャーや、場合によっては利用していたサービス事業所からも話を聞き情報を集めている。これまでの関係が継続できるようにと電話の取次ぎや手紙の手伝い、お盆の頃には家族との墓参りなどを支援し、たまにはあるが馴染みの人が訪れることもある。また、美容師の資格を持つ職員がいて、殆どの利用者は事業所で済ませているが、家族と共に行きつけの美容院へ通う利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者は日中のほとんどをホールで過ごされることが多く、生活リハやレクリエーションなど共同の場を通して入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設を退居されてからも、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人、家族様からの相談などに対応するよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また日々の関わりの中で見受けられる何気ない言葉や表情からその方の思いを把握するよう努めている。困難な場合は家族様にも話を伺い、本人本位で検討している。	日々のケアの中で思いが聞ける、また利用者から話をしてくれるひとときがある。それはリビングに皆が揃っていても職員が傍らに座り一対一で話し相手をしている時、居室を訪ねて話を聞いている時、また入浴中のリラックスしている時などがそんな時間である。職員が慌ただしくしては感じ取れない思いであり、ゆっくりと過ごしてほしいと願うケアの成果でもある。聞き取ったことは職員間で口頭で伝え合ったり、記録簿に記しプランへ反映させることもある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント作成時や入居時に、本人、ご家族、紹介先の担当者から情報収集を行い、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの暮らし方などを基に、入居後一人一人の一日の過ごし方は様々であるが、本人が過ごしやすいような支援に努めている。また、心身の状態や本人の有する能力の把握に努め、本人の希望に沿うよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向をふまえて介護計画を作成している。面会時に説明を行い、要望などを取り入れたり、状態が変わった時には見直しをする等して現状に即した介護計画となるように努めている。	本人や家族の希望は日頃の関わりの中で把握している。介護計画の設定期間は3ヶ月ごとではあるが、変化があればその都度、臨機応変に見直している。サービス担当者会議に家族の同席はないが来所の際に説明をし同意を得ている。事業所は残存能力を活かすケアにも積極的で、年を重ねることの低下が予想される体力や機能ができる限り維持できるよう努めプランにも活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は個々の記録に記入し、職員間での情報の共有はできている。スタッフミーティングや、月末に評価、気づきなどをあげ見直しの検討をするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況の変化やその時々ニーズに対して柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者それぞれに何が必要な地域資源とは何かということを常々考え、把握し、本人が必要としている資源を活用できるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を重視し、適切な医療が受けられる状況は確保している。施設が契約している訪問看護ステーションからも週1回の訪問看護定期訪問を受けている。	以前からの馴染みの医師をかかりつけ医としている利用者もいる。入居時に協力医への変更を勧めることはない。受診には原則家族が付き添い、日常の様子は職員から口頭で聞き、場合によっては当該記録簿を持参することもある。状況に応じて適切な判断をしており、希望する医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを同一敷地内にある養護老人ホームの看護師や、訪問看護ステーションの看護師に伝えて相談し、指示をもらい個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談等の対応は図られている。入退院時に限らず病院関係者との連絡や調整ができる関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のあり方については早い段階からご家族とともに話し合う機会を持っている。重度化した場合における対応に係る指針を掲げ、最終的にはご家族の希望に添えるよう取り組んでいる	入居時に方針の説明をしている。これまでに看取りの経験はないが、今後は希望があればその用意はある。事業所の体制や力量を考慮し、看護師資格を持つ職員による勉強会や指導も検討している。また、訪問看護ステーションと連携が取れていることも心強い。利用者や家族の想いに添って、容態の変化に応じて何度でも話し合いを重ね、納得して最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医療機関や訪問看護ステーションとは24時間の連絡に対応する体制は取れていて、緊急の場合等にも指示を仰ぐことができている。応急手当については「嘔吐物処理」に関しては初期対応から処理の仕方までの手順の確認はできている。		



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては、夜間想定を含む年2回の避難訓練の実施に於いて、消防署や同一敷地にある養護老人ホームと連携を取り避難の方法について身につけるよう訓練を行っている。地震・水害などについても地域の方との協力体制について再確認の必要があると考えている	隣接する同法人施設と合同の避難訓練は、年2回、昼間帯に行っている。訓練に立ち会う消防署から、実際の夜間にもと提案されたことはあるが実現には至っていない。利用者も一緒に避難を体験し、職員は消火器や火災通報装置の使い方も承知している。スプリンクラーや屋内消火栓の設備があり、水や寒さを凌ぐ物の備蓄もある。すぐ近くに居住する職員も数名おり、駆けつける手筈になっている。しかし緊急時の混乱を考えると、自己評価でも挙げているように近隣住民の参加協力は必要で検討課題としている。訓練時に反省点などの指摘があれば速やかに見直し、全員に周知している。	事業所としても地域住民の協力体制の必要性は認識されていることから、その取組みがスムーズに進むことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、日常生活の中での関わりや、職員間での話し合いで、その人なりの誇りやプライバシーを損なわないような対応や言葉かけをしている	職員が心掛けていることは非常にシンプルである。「自分がされて嫌なことはしない」というだけである。難しい場面に遭遇することもあるが、利用者に寄り添い、想いを理解しながらケアに努めている。普段、居室のドアを開けたままにしているため入り口には暖簾を掛け、軽く目隠しとしているが、利用者には自室の目印にもなっている。もし不適切なケアがあれば全員に注意喚起し、自らを省みる機会とするよう指導している。また、個人情報に対する意識も高く、ホーム便りや事業所内に掲示する写真にも承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で入居者が自らの思いや希望を表現できるような環境作りを心がけ支援している。自己決定についても自分で決定できる雰囲気を作れるよう配慮し取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決めているが朝の挨拶や日常の会話の中で本人の思いやどのように過ごしたいのかを聞き、本人のペースに合わせて、希望に沿った支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる身だしなみはやってもらい、その人らしいおしゃれができるよう支援している。理美容に関しては美容師の資格を持った職員が本人の希望を聞きながら対応している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には入居者の希望を取り入れるなどして提供している。苦手な献立の場合は別メニューでの対応もしている。調理や配膳なども入居者に参加してもらい食事に対する意欲、関心を高めるようにしている。後片付けにも参加してもらっている	献立は担当の職員が利用者にも尋ねながら作っている。急なリクエストがあっても一両日中には提供できる。一般の家庭と同じで毎食の栄養価は計っていないが、時々法人の管理栄養士に確認している。好き嫌いやアレルギーの把握もできている。利用者に食欲はあり、ただ食べる早さには差があるため時折介助に付きながら促している。口から食べることの大切さを認識しているだけに疎かにはしていない。誕生日はまとめることなく必ず当日に、職員と一緒に出掛けて好きなケーキを選び、皆で祝うというのが恒例である。利用者はできることで準備を手伝い、食事中は職員が少し離れたところから様子を見守り、必要に応じて介助をするスタイルである。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分摂取量についてはチェックを行っている。一人一人の心身の状態等により、食事の形態や量にも配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを日課としている。個々の能力に応じて見守り、一部介助、全介助の対応を行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄についてはチェック表を作成、活用する事により個々の排泄パターンや能力に応じた支援を行っている。可能な限りトイレでの排泄を促し、自立に向けた支援をしている。	完全に自立しているのは一名のみだが、チェック表で把握ができていたため他の利用者にも細かい支援ができていた。リハビリパンツから布パンツへ改善した例もある。日中は全員がトイレ使用で、最初から無理とせずに取り組む姿勢がうかがえる。また、便座脇に可動式ひじ掛けが設置してあり、立ち座りの補助具としても役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排泄状況を把握することにより個々の状態に応じた支援を行っている。水分量や運動量にも配慮し、必要に応じて訪問看護師にも相談、アドバイスを受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は隔日、午後に入浴を設定しているが、要望やタイミングによりいつでも変更可能な状況にしている。また入浴を楽しめるよう入浴剤を使用したり、入浴中は1対1でゆっくりと話をしたりするよう努めている。状態によっては介護者2人で対応する事もある。	入浴は一日置きとしているが希望があれば毎日でも可能である。皮膚が弱い人には個別のボディソープ等を用意してもらうが、それ以外は事業所で揃えている。浴室には一般家庭と同じタイプの浴槽があり、ゆっくりとお湯に浸りながら想いを話す利用者もある。ヒートショック対策の暖房設備や足拭きマットの上に各自のタオルを敷き感染予防とするなど工夫もみられる。拒む人にはタイミングをずらし対応している。衣服の脱ぎ着はできるだけ本人に任せ、羞恥心にも配慮しながら見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を大切にしながら、その時々状況に応じて休息したり、夜間の安眠が確保できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師の指導のもと、薬情で用法、用量など確認し理解している。疑問や服薬に関して不安に思うことはその都度薬剤師、看護師に確認しアドバイスをもらうようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴をできるだけ把握し本人の持てる能力に応じた活動への参加を促している。また、入居者の意向を聞きながら楽しみを見つけたり、気分転換が図れるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事計画を作成し実践している。天気の良い日には外気浴などで気分転換を図っている。また行きたい所などを尋ねドライブに反映させている。	本人から言い出すことも少なくなっている現状を憂慮し、できるだけ機会を増やそうとしている。花見や紅葉などを話題にすれば利用者にも興味が湧き、意欲にも繋がっている。皆で出掛ける車両もあり、着いた先で使う車椅子も準備しながら外出を楽しんでいる。体力の低下から散歩の範囲も狭くなっているが、外出がよい気分転換になること、日光に当たることが体内時計も整えること等を踏まえ、日常的な支援ができるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設での預かり金はしていない。個々の能力に応じてご家族が小遣い程度のお金を持たせておられる場合もある。外出の際に買いたいもの(ジュース等)を買われる事もあり、支払い等の際に支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙がくることは少ないが返事を書きたいと言われる時には支援をしている。電話をかけたいと希望された時や、かかってきた電話に出て頂くなどの支援はしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はほとんどをホールで過ごされることが多く、四季の草花や窓から見える風景を眺めながらスタッフや入居者同士での会話等それぞれが居心地良く過ごせるよう心がけている。また壁には入居者と一緒に作った四季折々の制作物や外出や行事の際の写真を貼っている。	利用者が日中の殆どを過ごすリビングは、西側の天井までの窓と北側の高窓からの日差しで明るさは十分である。但し、夏場の西向きは厳しく、ロールカーテンや外に植えたグリーンカーテンで調節している。季節によっては加湿空気清浄機も設置している。窓際や壁際に置かれたソファは利用者の寛ぎスペースであり、対面式キッチンから聞こえる音や匂いも家庭と同じ雰囲気である。テーブルを囲みながら塗り絵や折り紙をして過ごす利用者も多い。その作品は所狭しと飾られているが、季節毎に展示を変えてみるのも一案である。トイレや浴室等はきれいに掃除され、嫌な臭気はない。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの周りだけでなく ホールや玄関に置いているソファを利用し過ぎられる事もある。入居者同士で会話したり、思い思いの場所で過ごして頂けるよう工夫、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に本人、ご家族へ安心できる居室作りを伝え、自宅で使い慣れた物、好みの物などを置いたりして本人が落ち着いて居心地良く過ごせる空間となるような室内環境を工夫している	入居時には使い慣れた物や馴染みの物を持って来てもらうよう話している。火気等の危険物以外にその制限はしていない。仏壇や座り慣れた椅子などが持ち込まれ、それぞれに居心地のよい部屋となるよう配慮している。写真等も利用者と相談をしながら飾っている。掃除は職員が行うが、手伝おうとする人にはお願ひし一緒に行っている。また家族が希望すれば宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中で本人ができることはできるだけ本人に任せ、できない部分のみ援助するようにしている。トイレなど共同で使用する場所がわかるような環境作りを心掛けている。個室トイレにもその方に必要な事柄に関しての説明文を貼るようにしている		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない